

～「木地挽き」「塗り」「漆掻き」の全てを行った家～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：「安比川流域に眠る「漆と蔵」調査と活用について」

研究代表者：盛岡短期大学部 三須田善暢

課題提案者：日本遺産奥南部漆物語推進協議会

研究メンバー：林雅秀(山形大学)、石沢真貴(秋田大学)、長谷部弘(宮城学院女子大学)、脇野博(元岩手大学)、大野啓(佛教大学)

技術キーワード：ユネスコ無形文化遺産、日本遺産、誇りの醸成、文化財の活用

▼研究の概要（背景・目標）

八幡平市安比川流域の漆文化を継承するため以下を行う。(1)旧家の蔵を調査し漆器関係史料を発掘する。(2)漆文化普及の一環として郷土料理に漆器を用いた住民交流を行う。(3)蔵を公開し観光の用に供する企画を検討する。(4)漆器生産の土台となる漆木の植栽を行う。

▼研究の内容（方法・経過）

【実施方法】①蔵のある旧家調査。②史料写真をもとに目録作成。③郷土料理の試食会や漆木の植栽を通じた交流の実施。

【実施内容】蔵調査：八幡平市安代地区戸沢地内羽沢恒芳氏蔵調査（2024年8月7-9日）。交流会：八幡平市立五日市コミュニティセンターにて「秋の味覚を味わう会」実施（10月20日）。漆苗木植栽樹：八幡平市目名市地内畑地に実施（11月9日）。

▼研究の成果（結論・考察）

蔵調査からは漆器、膳（御山膳、隅切り膳）、フロ、木地の道具、手挽ロクロ、テガタ、チョウナ、漆カンナ、ヘラなどがあり、木地挽きと塗り、漆採取の全てを行っていたことが分かる。ただ、漆関連文書類が見当たらず、経営の状況はよく分からない。他に山争いについての絵図や「二戸郡荒沢村酒類密造矯正会規約」があり、別の意味で興味深い。

漆器の例



隅切り膳



手挽ロクロ



山争いについての絵図



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 1.当該地域で「木地挽き」「塗り」「漆掻き」のすべてを行っていたことが分かり、地域的に分かれているという定説とは異なる興味深い事例であった。
- 2.漆文化の周辺の史資料も見出され、多様な地域の「誇りの醸成」につながるものである。
- 3.漆文化とかかわる郷土料理は、活用次第でインバウンド観光に結びつき、地域の活性化につながる。